

炬火・炬火受皿 組立説明書

【はじめに】

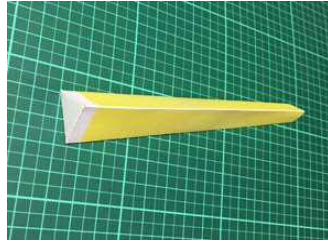
作り方が少しむずかしいので、適当に作ると残念な仕上がりになります。うまく作るために、いくつか気をつけることがあります。

まず、型紙はカッターなどで正確にカットしてください。折りが付くところは、カッターで軽くきずを付けてください。

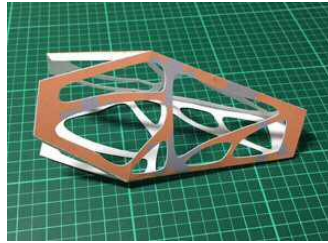
接着には木工ボンドがおすすめです。あまりたくさん付けると、はみ出して見苦しくなります。すき間が空いてしまったら、紙の切れ端やつまようじなどでボンドを付けましょう。説明書に従って端からできるだけすき間なく組み立てていきます。

インクで手が汚れてペパクラに色が移ってしまうので、お手ふきなどを用意してください。

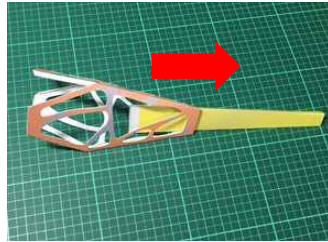
- 1 にぎり手を組み立てます。
三角形は最後にふたをするように接着します。



- 2 本体を組み立てます。
上の方はまだ接着しないでください。



- 3 にぎり手の上部にボンドを付け、にぎり手を本体の上の方から差し込んで接着します。



- 4 本体上部を接着して閉じます。



- 5 芯を作ります。
色鉛筆など丸い棒を使って丸みを付け、接着します。



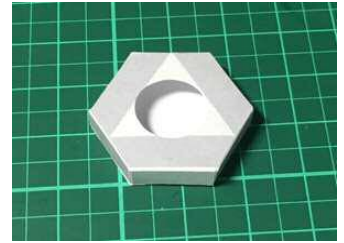
- 6 芯の先端にボンドを付けます。
のりしろはありません。



- 7 ボンドを付けた方を下に向けて本体の上部から差し込み、にぎり手の三角形部分に接着します。
本体のグレーに塗られた鳥の接着位置を正面にして、裏側に芯の継ぎ目がくるようにします。



- 8 雲受けを切り離し、図のように組み立てます。



- 9 本体上部の三角部分の3つの角に、図のようにボンドを付けます。
のりしろはありません。



- 10 雲受けを芯に差し込み、接着します。
雲受けの三角に本体の位置を合わせます。



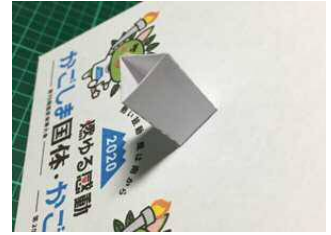
- 11 鳥（ルリカケス）を本体に接着します。
本体のグレー部分にボンドを付け、その部分が隠れるように鳥を接着します。



12 花（ミヤマキリシマ）も同じように接着していきます。3カ所あります。



18 台の表から図のように受けのグレー部分が隠れる位置まで受けを差し込み、裏で接着します。



13 他の2面は花を5カ所ずつ接着します。



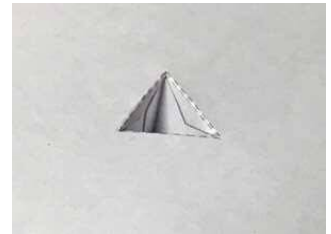
19 台補強を丸く組み立て、受けのグレー部分が出ている側のまわりに接着します。受けがほしい真ん中にくる位置に合わせます。



14 着火口を組み立て、先端の縁にボンドを付けて雲受けの上部の円に合わせて接着します。のりしろはありません。鳥を正面にして着火口のつぎ目が左側に来るよう取り付けると、つぎ目が目立ちません。



20 もう片方の三角穴ののりしろにボンドを付け、受けの三角部分の内側と接着します。



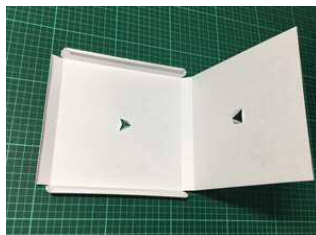
15 完成図を参考にして、雲受けの白地部分3カ所にそれぞれ雲を接着します。薄いグレーの側が表です。



21 台の縁を接着していきます。正面は最後に台を水平なところに置いてガタつかないように調整しながら接着します。

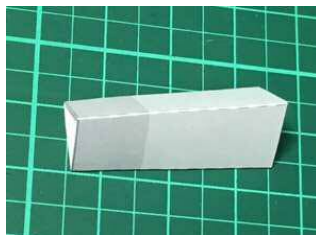


16 炬火台を作ります。図のようにカットし、折り曲げてください。台の中央の三角部分も、山折りに折り込んでください。

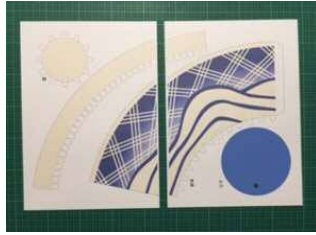


炬火を台に差し込んで完成です。

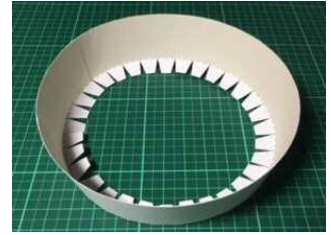
17 受けを図のように組み立てます。



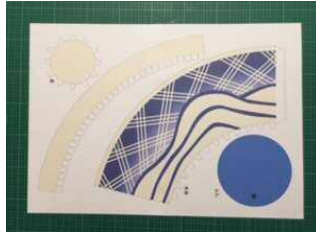
1 炬火受皿を印刷します。
炬火と同じ縮尺にする場合は、140%（A4→A3）に拡大印刷します。



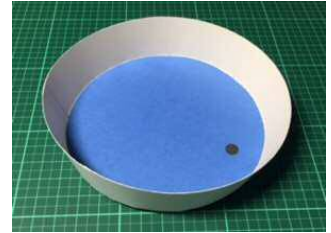
7 色のついた方を内側にして、縁を図のように組み立てます。



2 拡大印刷をつなげるときは、つなぎ目の印刷されていない部分の片方をカットし、もう一方の縁にボンドを付け、位置を合わせて接着します。



8 ふたを縁に接着します。



3 本体を組み立てます。はり合わせる前に、少し丸めてくせを付けておきます。



9 本体に縁を接着します。本体とふちの高さを合わせるために、はさみで切りそろえて完成です。



4 本体の底ののりしろを図のように折り曲げ、ボンドを付けます。



5 底は図のようにのりしろを折り曲げて、外側にボンドを付けます。



6 のりしろをかみ合わせて位置を合わせながら底を本体に接着します。



炬火と並べるとこのようになります。

